



いわき市

農家と
農委を
つなぐ
広報誌

農業委員会だより

編集・発行 いわき市農業委員会

2024

令和6年7月1日発行

No.201

〒970-8026

いわき市平字堂根町4-8

TEL.0246(22)7534

FAX.0246(22)7538



主な記事のご紹介

2ページ

- 地域計画の策定を進めています

3ページ

- 第17期いわき市農業委員会視察研修報告
- 8月から11月は「農地パトロール強化月間」です！

4ページ

- がんばる農業者
あの人 この人
- 今号の表紙から

5ページ

- 農地流動化情報
- 農業者年金に加入しませんか？
- 農作業労働賃金標準額のアンケート調査にご協力を！

6ページ

- 地区だより(中部地区)
- トピックス

地域計画の策定を進めています

農業経営基盤強化促進法の改正により、農業の将来の在り方、農業上の利用が行われる農用地等の効率的かつ総合的な利用を図るため、地域計画の策定を進めています。

地域計画では、「地域農業の将来の在り方」、「地域農業の将来を示した目標地図」を、地域の協議の場において作成し、公表することになります。

令和5年度は、市内約85地域で説明会を行い、13地域で地域計画が策定されました。

今後も、順次、地域計画の策定を進めます。

地域計画の策定の期限は、令和7年3月末までとなっていることから、地域の皆様への農業経営意向に関するアンケート調査や、地域計画を策定するための協議の場への協力をお願いします。



沼部町での説明会

目標地図の素案の作成

話し合いを進めるためには、地域農業の将来像を明確に図案化した地図が必要になります。そのため、目標地図の素案を農業委員会が作成します。

目標地図の素案を作成するため、今後の農業経営意向に関するアンケート調査を実施しています。

話し合いが進んでいる地区から順次アンケート調査を行っていますので、ご協力をお願いします。

なお、アンケート調査は、農業経営をお願いするものではありません。現在の状況を把握するため、率直なご意見をお寄せください。



中三坂での協議の場

協議の場

これからの地域農業をどうしていくかを話し合う協議の場を、市農業政策課が実施します。

協議の場において、地域農業の実態を確認し、将来について一緒に考えていきましょう。

協議の場には、市農業政策課の他、県や農業委員会、農地中間管理機構、JAなど関係機関が参加し、協力して地域計画を策定します。



平片寄での協議の場

地域計画・協議の場に関するお問い合わせ

いわき市農業政策課 ☎(22)7470

目標地図の素案・農業経営意向のアンケート調査に関するお問い合わせ

いわき市農業委員会 ☎(22)7574

第17期いわき市農業委員会視察研修報告



令和6年2月28日(水)から3月1日(金)の2泊3日の行程で、11名の農業委員・農地利用最適化推進委員が、香川県での視察研修を行いました。

香川県は、うどん県と言われ、讃岐うどんの本場ですが、降雨が少なく水稲栽培に適さない土地で、麦と塩の生産が盛んであり、そこに、弘法大師(空海)がうどんの製法を伝えたときれ、現在は、うどんの消費量が日本一になっています。

さて、視察研修では、高松港から小豆島に渡り、株式会社小豆島岬工房を訪ね、土居秀浩社長からオリブ栽培の歴史や技術などのレクチャーを受けました。

小豆島では、オリブの試験栽培から100年の歴史があり、病気や気候変動で一度は衰退したものの、いち早く法人化を行い、先人たちの努力と情熱で復活したことや、町全体にオリブが植えられており、観光と農業が一体となった現場を目の当たりにしました。

特に、土居社長からは、「栽培技術を学び、研究し、育てていけば良いオリブが取れる。その土地にあった栽培方法を見つけてほしい。一緒にオリブを盛り上げたい」とお話をいただきました。

参加した委員にも、同じ樹木である梨栽培の農家もあり、栽培技術について専門的な意見交換を行ってきました。

小豆島は、オリブの他に、しょうゆとごま油の生産も盛んで、オリブと合わせて地場の強い農産物になっていることを学んできました。

オリブ栽培は、最近いわきでも盛んに行われており、研修内容を活かせる取り組みをしていきたいと考えています。

(撮影・執筆 蛭田元起)

8月から11月は「農地パトロール強化月間」です!

毎年8月から11月を農地パトロール強化月間として、農業委員と農地利用最適化推進委員、事務局職員が、①地域の農地利用の確認、②遊休農地の実態把握と発生防止・解消、③違反転用の発生防止・早期発見—を目的に現地調査を実施するものです。また、広報車や市ホームページ等の広報活動を通じて、市民の皆様へ制度の普及啓発を図ります。

実施スケジュール

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		概ね6か月後
農地パトロール (農業委員・推進委員による 利用状況調査)			利用意向調査 (所有者等へ調査票を送付 →意向を記入し返信)			意向に沿った支援など (農地中間管理機構への 貸し出し支援等)			現地確認など (自ら耕作・貸し出し を行う意向の農地)

農地パトロールへのご協力を

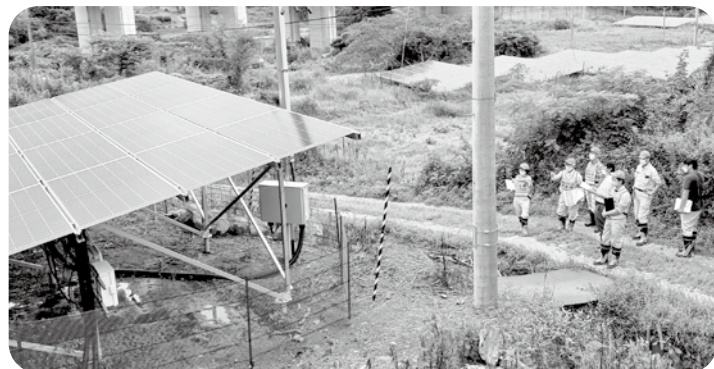
同パトロールのため、農業委員や農地利用最適化推進委員が農地に立ち入ることがありますので、ご協力をお願いします。

調査後はどうなるのか

所有者の意向を踏まえ、農地を効率的に利用できるよう、農地中間管理機構への貸し出しや、本紙面「農地流動化情報」への掲載などの支援を行います。

利用意向調査は必ず返信を

遊休農地や遊休化のおそれのある農地に関しては、所有者・借受人に今後の利用方法の意向を確認するための書類を郵送しますので、必ず返信してください。



ご不明な点はお問い合わせください

農地調査係 ☎(22)7574

がんばる農業者 あの人この人



なかむら しょうこ
中村 彰子さん(62歳) 平下高久

いわき市平下高久にある「浜の野菜株式会社」では、全部で12棟も並ぶハウスで小松菜とほうれん草を中心に、水菜や春菊など多種類の葉物野菜を栽培しています。

代表の根本和彦さんは、東京でIT関係の会社を経営しながら、震災後「故郷のいわきに貢献したい」との思いで2017年から農業を始め、浜の野菜を立ち上げました。現在は代表の姉の中村彰子さん(写真中央)がスタッフの方と力を合わせて、栄養価が高く、おいしくて品質の良い野菜作りに取り組んでいます。

栽培方法は、地温制御とICTを使用した野菜の生産です。土を温めるパイプを地面に埋め込み、地温を管理。ハウス内の温度、湿度、二



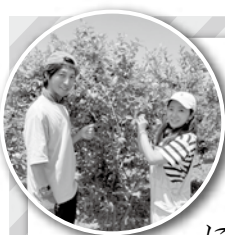
酸化炭素まで詳細なデータを管理することで1ヶ月先の収穫時期を予測することができます。

有機肥料を使った土作りや収穫後の畑の手入れ、定植作業など、管理システムでは補えない部分では、中村さんを中心にスタッフの一人ひとりが丁寧に作業しています。

浜の野菜の小松菜はJGAP認証を取得しており、独特のえぐみがなく、生でも美味しく食べられるのが特徴です。

現在は発酵肥料を研究中という中村さん。「おいしくて健康にいい」という想いを話してくださいました。浜の野菜株式会社の野菜の目印は「浜の野菜」とパッケージに書いてあり、市内スーパーなどで取り扱っています。ぜひ手にとつて食べてみてください。

(撮影・執筆 志賀幸)



今号の表紙から

夏一番を控え、市内各所のブルーベリー農園では、緑色の粒が紫色に変わる準備を始めています。表紙は小川町にある「チャコちゃん農園」でのひとコマ。昨年夏のある日、いわきおかあちゃんのが主催する農業体験イベントが行われ、農園は20組を超える親子で賑わっていました。農園を管理する辰野扶美子さんと渡辺恭佑さんは、手順よく作業を説明しながらも、栽培にあたっての想いを、直接参加者の皆さんへ伝えていました。

現在は福島県の小学校教諭でもある辰野さん。過去にはカナダや大阪でも教員をしたり、オーストラリアでは農業にも挑戦してきました。そんな行動力の源には、大学生の頃に訪れたカンボジアで出会った子どもたちの姿が。ごみ山で生活する子どもたちが、目をキラキラさせながら将来の夢について語ってくれたことが、こんなに恵まれた日本で行動しない理由はないと思わせてくれたのだそうです。

一方渡辺さんは「Kyokke Coffee」の屋号でバリスタ活動をしており、市内イベント等ではコーヒーだけでなくブルーベリーを使った飲み物を提供し、ブルーベリーの魅力を伝えています。

そんな2人が今チャレンジしているのは、ブルーベリーの無農薬栽培。除草剤を使わないため、炎天下での草刈りが何よりも重労働ですが、採れたての新鮮なブルーベリーをその場ですぐに味わっていただきたいとの想いで日々奮闘しています。今年も美味しいいわき産のブルーベリーを味わえる日が楽しみです。

(撮影・執筆 菅野綾)

農地流動化情報

農業委員会では、耕作を目的とする農地情報の収集・提供を行っています。売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談下さい。掲載している農地のお問い合わせは、7月1日(月)午前8時30分から受付開始します。

Vol.60

お問い合わせ 農地調査係 ☎(22)7574

◆貸したい

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	平下大越字中ノ町 (1筆)	畑	8.07
2	平上平窪字原田 (5筆)	畑	82.33
3	平南白土字八ッ坂 (1筆)	田	10.20
4	常磐白鳥町八合 (1筆)	田	2.93
5	常磐白鳥町八合 (2筆)	田	12.50

お問い合わせ先

農政振興係

☎(22)7534

- 《農業者年金の特徴》
- ◎ 農業者だけが加入できる国民年金の上乗せの公的年金です。
 - ◎ 少子高齢時代に強い積立方式・確定拠出型です。
 - ◎ 月額保険料を自分で決められます(2万円から6万7千円の範囲内の千円単位)。
 - ◎ 終身年金です。歳前になくなつた場合には死亡一時金があります。
 - ◎ 任意脱退が可能です。脱退一時金はあります。
 - ◎ 保険料は全額社会保険料控除の対象、年金資産の運用益も非課税です。
 - ◎ 支払った保険料は、加入期間に応じ、任意脱退しても将来受給できる年金に反映されます。
 - ◎ 加入後は、国民年金の付加年金(月額400円)に加入していただく必要があります。

- 農業者年金基金のホームページで、あなたの農業者年金額のシミュレーションができます。
 - 加入しているかどうかを問わず、制度や手続きについて、専門相談員に質問や相談ができます。
- 専門相談員 ☎03-3502-3199 ※平日午前9時から午後5時まで
詳しくは、農業者年金基金 検索 <https://www.nounen.go.jp>



農業者年金に
加入できます！

年間60日以上
農業に従事し
ていますか？

国民年金の保
険料を免除さ
れていますか？

国民年金の第
1号被保険者
ですか？

あなたは20歳
以上で60歳未
満ですか？

はい

いいえ

はい

いいえ

農業者年金に加入できません

農業者年金に加入しませんか？
メリットが多い制度です。ぜひご検討ください。

農作業労働賃金標準額のアンケート調査にご協力を！

農業委員会では、農作業受委託において、委託者及び受託者間で適正な労働賃金を設定できるよう、その目安となる農作業労働賃金標準額を毎年定めております。

この度、令和7年農作業労働賃金標準額の策定に向けて、農作業労働賃金標準額を利活用されている皆様のご意見を伺うため、アンケート調査を実施しますのでご協力をお願いします。

期 間 令和6年7月1日から7月31日まで

方 法 アンケート調査用投稿フォームから回答をお願いします。

☞ スマートフォンからは、下記のQRコードから回答してください。



アンケート調査用投稿フォームQRコード

☞ いわき市農業委員会ホームページからも回答いただけます。

(URL) <https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1683763406720/index.html>

(市ホームページから、**農作業労働賃金標準額**で検索)

農作業労働賃金
標準額について
アンケート



お問い合わせ先 農業委員会事務局 農政振興係 ☎(22)7534

トピックス



いわき市には7つの土地改良区があります。今回は、四倉にある農業用溜池を管理する、千軒平溜池土地改良区を紹介いたします。当地域の耕地約570haは、昭和初期頃から年々水不足を訴え、常習的な干ばつに悩んでおりました。

この憂いを解消すべく昭和12年頃から組織を立上げ本事業を推進する運びとなり、同23年に溜池工事の起工式を挙行し、10年余の歳月を持って同34年10月に完成し現在に至っております。

昨今、異常気象が目立つ中、令和元年台風では、一部の地域では田が水没する被害が発生。これをきっかけに、台風時期には貯水量を40%以下で管理する取組みを実施しました。その結果、昨年発生した台風13号では、当地区では大きな被害は発生しませんでした。地域住民の安心安全を守りながら、当地区の農業を守り続けて行きたいと思っております。

(撮影・執筆 岡村泰典)



岡村 泰典 編集委員
取材を重ねる事で、多くの経験をさせて頂き、充実した3年間を過ごすこ

新妻 信夫 編集委員
取材で多くの人との出会いがあり、新たな発見もありました。3年間で難うございました。

田子 耕一 編集委員
編集委員としてお伝えすべき事の何分の一もお伝え出来ませんでした。お詫びと共に、残した思いを次期編集委員に託します。

菅野 綾 編集委員
取材をとおして新たな知識を得たり、農業の魅力を自分の言葉で発信できた3年間。とても貴重な経験でした。

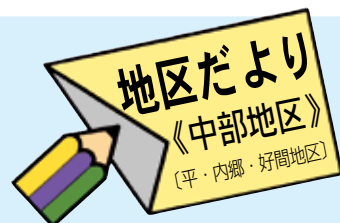
志賀 幸 編集委員
編集員としての3年間、多くの生産者を訪れ、直接出会うことで食の大切さや喜びを肌で感じ予想以上の学びができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

とが出来ました。ご協力して頂いた皆様に感謝申し上げます

生田目 祥明 副委員長
記事の取材で色々な場所へ何回も行って頂き、新たな出会いや発見がありました。貴重な体験をありがとうございました。



(後列右から) (前列右から)
岡村泰典 新妻信夫
菅野綾 生田目祥明
志賀幸 蛭田元起
田子耕一



地区住民の悲願

横川水門完成間近

仁井田川水系河川改良促進期成同盟会が設立され50周年を超え、夏井川水系期成同盟会と一緒に長年の努力が実り横川に水門が建設されることになり工事が進められております。

平成18年頃から夏井川の河口閉塞が顕著になり、夏井川の流水が仁井田川(横川)に流れ仁井田川河口から海に流れるようになりました。平成23年の東日本大震災以降は、地盤変動の影響が顕著で全量が逆流し排水機場が毎日運転するなど状況が悪化し、更に平成28年の台風では仁井田川(横川)の逆流と増水により避難勧告も発生しました。本水系の中で横川本流築堤工事や、仁井田川及び夏井川に接続する三夜川、赤沼川、及び原高野川などに未改修箇所があり、大雨時に夏井川及び仁

井田川両河口の堆砂による閉塞と相まって、河川の氾濫が発生する不安がありました。完成すれば安心です。



(撮影・執筆 新妻信夫)

編集後記

蛭田 元起 編集委員長
今号は、17期の編集委員会で作った最後の「だより」です。編集委員の皆さん、ありがとうございました。